

神奈川県公立中学校教育研究会

美術部会 会報



2020年度研究報告

神奈川県公立中学校研究部会 広報部

2020年度 美術会報目次

1、1ブロック 横浜地区	-----
2、2ブロック 川崎地区	-----
3、3ブロック相模原地区	-----
4、4ブロック横須賀地区	-----
逗葉地区	-----
三浦地区	-----
5、5ブロック 鎌倉地区	-----
茅ヶ崎地区	-----
藤沢地区	-----
6、6ブロック伊勢原地区	-----
中地区	-----
平塚地区	-----
秦野地区	-----
7、7ブロック足柄上地区	-----
小田原・足柄下地区	-----
南足柄地区	-----
8、8ブロック 座間地区	-----
綾瀬地区	-----
海老名地区	-----
厚木・愛甲地区	-----
9、広報部連絡	-----
10、編集後記	-----

1 ブロック横浜地区

・ 令和2年度の研究テーマ

「みること みえてくること ～学びの行く先～」

2. 重点研究について

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究
- ・ 「横浜らしい教育課程」の実現に向けた諸課題における研究
- ・ 美術教育の普及を推進する組織や人材との連携の研究

3. 具体的活動について

①地区ブロックや各区での題材や授業の研究推進

- 各区の研究テーマを市のテーマに基づいて設定し、研究成果を報告（延期）。
- 地区内の分担区で区教研が行われる公開授業を市の研究会とし、研究発表の場を設定（延期）。
- 年度末に研究集会を開催し、地区ブロックでの分担区が研究報告を実施（延期）。

②重点研究を視野に入れた題材の開発・研究紹介の推進

- 研究報告会や実践発表会を開催し、会員相互の研究意欲を高め、一層の交流を図る。

③各美術館・ギャラリー、各団体との連携推進

- 「横浜美術館」と連携した美術研修および協力を推進。
 - ・「横浜美術館コレクションと学校つなぐ鑑賞会」を実施（8/1 オンラインで開催）。
 - ・「横浜美術館コレクションによる中学校授業研究会（未開催）。
- 「横浜市民ギャラリーあざみ野」と連携した美術研修および協働を推進。
 - ・「アートアニメーションワークショップ」（未開催）
 - ・中学校美術科及び部活動によるアニメーションフェスティバルを開催。

4. おもな年間の行事について

【1月16日 アニメーションフェスティバル : 市庁舎アトリウム

もえぎ野中・日吉台西中・六角橋中・川和中・篠原中・大道中・中川西中・希望が丘中

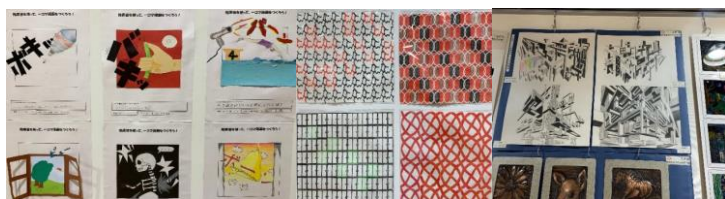


令和3年1月16日、横浜市庁舎アトリウムにて、アニメーションフェスティバルを行いました。今年度は感染症防止対策として、開閉会式は事前に撮った映像を使用しましたが、部活動主体で上映の運営を行いました。

参加校は8校で、切り絵や黒板アート、クレイアニメなど各校のプレゼンテーションを行いました。今後は、アニメーションの制作を授業でも取り入れ、対話を通して主体的に取り組む姿勢を養っていきたいと考えています。

また、2月20日（土）に再上映も行いました。今後もこの取り組みを続け、アニメーションの世界を広げていきたいと思います。

【1月27日～2月1日 横浜市立学校総合文化祭「図画工作・美術作品展」：横浜市民ギャラリー】



令和3年1月27日（水）～1月31日（日）横浜市民ギャラリーにおいて、令和2年度横浜市立総合文化祭が行われました。コロナ禍であるがゆえに開催自体が危ぶまれましたが、小中学校書写展の国語科研究会や市図画工作教育研究会、特別支援教育部門との連携により、出品や入場の決まりについて十分な検討を重ね、作品展を開催することができました。

横浜市民ギャラリーの各フロアに、感染症拡大防止のための人数制限がある関係上、搬入のスリム化を行い、今年は平面作品のみの展示となりました。

今年度は出品校122校、作品数2003点、総合来場者数1961人と、想像以上に来場していただきました。地区ごとの入場制限や、鑑賞に関しても時間制限があるにもかかわらず、大きな混乱もなく、ご理解頂きながら、ご協力して頂きました。

こんなご時世ですが、出来ることを皆で探し出し考えて、多くの方にご協力して頂き開催できたことを、大変うれしく思っております。またそんな中でも、ご家族や、親戚で来場して頂き、階段付近で待ちながらも足を運んでくれた方々を見て、我々が思っている以上にとても楽しみに来ていることを、我々美術科教員は肝に銘じ、責任をもって続けて行かなくてはならない事を再確認しました。来年度もそんな想いを胸に、成功できればと思います。

5. 今後の課題・まとめ

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で当初計画していた授業研究会等が延期ならびに中止に追い込まれた。その中でアニフェスや総合文化祭「図画工作・美術作品展」の制限付きの開催を決行し、今後に向けた活路を見いだした。来年度は新学習指導要領実施もあり、教科としての教員間のつながりが一層必要になる年でもある。同要領では、美術の学びにおける具体的な目標として「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。」とあり、授業の組み立てや学びの枠組みづくりを創意工夫するとともに、生徒の学びを見取る力を高めていく必要がある。

2ブロック 川崎地区

1, 研究テーマ

「 つながる つなげる ～今と未来に生きる私たちの美術～」

2, 1年間の実践報告

日 時	会 場	内 容
5月17日（木）	京町中学校	美術科教科部会総会（中止）
6月19日（金）	渡田中学校	美術科「6月会」プレ授業・事前準備（中止）
6月23日（火）	渡田中学校	第59回美術科「6月会」（中止）
6月23日（火）	川崎市総合教育センター	常任委員会①
6月25日（木）	東大島小学校	川崎市造形教育連合会 第1回創造する子ども展実行委員会 15：30～ ＊今年度は中止の判断がされる。
7月7日（火）	川崎市総合教育センター	第47回神奈川県公立中学校教育研究会美術科部会川崎大会 準備委員会開催 ＊書面で研究成果を発表することが決まった。
（各地区で日程設定）	（各地区の会場）	各地区研究会①
8月19日、20日		第2回中学校教育課程研究会（中止） ＊指導主事よりの伝達事項を各校で動画配信により視聴した。
10月28日（水）	各地区	連合文化祭美術科 表現活動と鑑賞
11月2日（月）	東橘中学校	第47回神中美研究大会プレ（川崎ブロック大会）（中止）
11月6日（金）	東橘中学校	第47回神中美研究大会（川崎ブロック大会）（中止）
12月15日（火）	神奈川県立青少年センター	第53回神奈川県中学校美術展 搬入
12月16（水）～ 12月21（日）	神奈川県立青少年センター	第53回神奈川県中学校美術展
	神奈川県立青少年センター	第53回神奈川県中学校美術展 搬出
1月15日（金）	川崎市教育文化会館	第54回川崎市中学校造形展 搬入（中止）
1月16日（土）～ 1月17日（日）	川崎市教育文化会館	第54回川崎市中学校造形展（中止）
1月20日（水）	川崎市教育文化会館	第54回川崎市中学校造形展 搬出（中止）
2月18日（木）	川崎市総合教育センター	美術科主任会

3, 6月会について

昭和36年から令和元年まで59回開催されてきた川崎市美術科授業研究発表会「6月会」(明日への美術教室)であるが、令和2年度は、コロナ禍により、残念ながら中止となってしまった。しかし、川崎市の4地区に分かれ、発表準備をしてきた題材があるので、それを令和3年度に持ち越し、川崎市立渡田中学校において6月に研究発表会を予定している。長年に渡り、研究発表の場として川崎市の美術科教員が力を合わせ築き上げてきた実績を絶やさぬように、次年度はコロナに負けず開催し、研究を継続して行きたい。

3, 連合文化祭について

川崎市では、連合文化祭として毎年10月下旬に、弁論大会や競書大会、音楽会、演劇発表会などを開催している。今年度53回を数える伝統ある行事となっている。今年度は開催自体があやぶまれたが、様々な行事等が中止となる中で、文化的な体験の継続を願い、校長会で実行が決定した。美術科部会では、表現活動と鑑賞活動として、市内の美術館と連携した鑑賞会、及び、市内4地区に分かれて会場校の体育館に各校から美術部の生徒が集まりともに表現活動をする機会を設けた。例年、各校10名ほどの美術部員が参加し、総勢150名ほどで、美術部の交流の場として貴重であったが、今年度はコロナウィルス感染防止の観点から、各校5名程度と人数を限定して行った。少数精鋭のため、一人一人の生徒に目が届きやすく、生徒同士も空間をとったが、心の距離は近く交流することができた。

***川崎市中学校第53回連合文化祭【令和2年10月28日(水) 13時～16時】**



3ブロック 相模原

1. 研究主題
- 「子どもたちのポテンシャルを引き出し、自己肯定感を高める授業開発」
2. 主題設定の理由
- 継続して取り組んでいる自己肯定感を高める授業開発に取り組みながら、新たに子どもたちの秘めた可能性を引き出せるような授業改善の工夫をテーマに研究を推進していくため。

研究内容

1. 研究の方法
- 3つの研究グループを構成し、それぞれがテーマに基づき研究を深める。今年度は、次頁以降の3人の授業者の下、3グループに分かれ、研究をすすめているところである。

A：題材「形と色の挑戦」	グループテーマ 「自己の考えの変容を見つめ、主題と表現を深く結びつける授業」
B：題材「ふるさとを伝える」	グループテーマ 「地域の魅力を発信し、未来の私をつくる授業」
C：題材「ねんど布」	グループテーマ 「工程の工夫で各自のありのままの表現がお互いに受け入れられる授業」

授業案 A 相模原市立 相武台中学校 牧野 朝輝

題材名 形と色の挑戦「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」「作品や美術文化などの鑑賞」

「A 表現 (1) ア (ア) (2) ア (ア)」 「B 鑑賞 (1) ア (ア)」 「[共通事項] (1) アイ」

題材の目標

- (1) 「知識及び技能」に関する題材の目標
- ・ 形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、美しさや量、動きを全体のイメージで捉えることを理解する。

・ 粘土や絵の具の生かし方などを身につけ、意図に応じて工夫して表す。
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標
- ・ 自分に関わる感情や感覚の言葉を基に、全体の量や動きのバランスと素材感、マチエールとの関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。

・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

(3)「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感情や感覚の言葉を基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

授業案 B 相模原市立 内出中学校 指導者 小森 恵

題材名「さがスパデザイナーズ」～ふるさとを伝える～

第3学年 「目的や機能などを考えた表現」

「A表現」(1) イ(イ)、〔共通事項〕(1) ア、イ)及び「作品や美術文化などの鑑賞」(「B鑑賞」(1) ア(イ)、〔共通事項〕ア、イ

題材の目標

(1)「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、使う場面や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。
- ・意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。

(2)「思考・判断・表現」に関する題材の目標

- ・伝える相手や相模原を象徴する風景などのイメージなどから主題を生み出し、形などが感情にもたらす効果や分かりやすさと美しさなどとの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。
- ・伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

(3)「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に相模原を象徴する風景などのイメージを商品を渡す人々に対して情報を分かりやすく伝える事などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

指導案 C 相模原市立 相原中学校 指導者 米澤 崇治

題材名「ねんど布」

題材の目標

ねんど布の作品を通して、布の質感をどのように活かして表現するかを他者の作品を通して感じとることができるようにする。自分の発想にない視点に気付き、思いやりの心が育つようにする。また自分の作品を他者が見て、ありのままの自分の表現を認めてもらえる経験をし、自己有用感を高める体験をする。

課題とそのねらい

ねんど布の質感を見つめ感じ取った形や柔らかい影の特徴や美しさなどを基に主題を生み出させる。布素材の軽さや柔らかい影を生かして創造的な工夫をし、心豊かに表現させる。他者の作品を通して、自分と感じ方が違うことに気付かせる。また自分の作品を他者が見て、ありのままの自分の表現を受け入れられる体験をさせ、自己有用感を高めさせる。

今年度の成果、今後の課題

今年度は、令和3年度の神中美研究発表大会と新学習指導要領の完全実施を見据え研究をすすめ、グループごとにテーマを設定し公開授業と研究協議を行う予定であった。しかし、コロナ禍によって大きく計画変更をせざるを得なかった。現在、研究については3つのグループに分かれ、研究発表大会に向け提案された授業で「子どもたちのポテンシャルを引き出し、自己肯定感を高めること」の重要性について協議を始めたところである。その中で、新学習指導要領や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に沿った指導案を作成するなど来年度に向けた準備をすすめることができた。

造形「さがみ風っ子展」は今年度においては開催中止となった。多くの子どもたちの作品が光と風を浴びながら輝く大規模作品展が開催されないことで、改めてこれまでの造形「さがみ風っ子展」の影響の大きさと意義を知ることとなった。令和3年度も開催の有無については凍結という中でも相模原の誇るこの展覧会のよさを振り返り、研究発表大会で発信したい。

今後の課題として、「指導と評価の一体化」のための学習評価の方法の研究、美術を学ぶことが自身の人生を豊かにすることを実感できるような授業づくりを目指し、さらに研究を推進していきたい。

4 ブロック 横須賀地区

1. 研究テーマ

「豊かな心を育てる造形教育」
ー子どもによりそい・おもいをかたちにー
ーであう・あじわう・つくりだすー

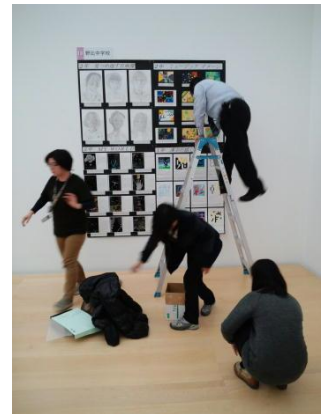
中学校部会 重点課題

- 1 造形研究会中学校部会の充実
 - ・ 仕事内容の明文化と組織力を強化する
 - ・ 神中美、他地区との情報交換や教科研究の場として充実させる。
- 2 研究活動の推進
 - ・ 研究会組織の活性化と教材研究・作品交流
 - ・ 教育課程の根ざし研究を進める
- 3 小学校や高校との交流
 - ・ 小中高合同の研究会の意義をふまえ、小学校や高校との交流を深める

本市の造形教育研究会は、小学校・中学校・市立高校・幼稚園・ろう学校・養護学校合同で行われ横須賀市造形教育研究会として活動している。教科総会、夏季実技研修会、児童生徒造形作品展、研究発表会等も同一で行われ、さらに特徴としては、美術館と共催で児童生徒造形作品展を美術館の開館当初（2007年度）より行っている。この作品展は、各校の年度内の研究発表の場であり、市立の幼・小・中・高が同じ会場に展示されて、観覧者数も1万6千人に及ぶ。

教育課程、美術科担当者会は中学部会として独立して年数回行われている。また、市研究部主催の研究会も計画的に行われ、近年増えている新採用教員への研修や、学校間での教材研究や作品交流の場として機能している。

今年度はコロナ禍での影響を受け、中止となるものが多かった中、開催期間短縮もありながらも児童生徒造形作品展を開催できたことは、今後の造形教育に大きく影響を与えるものである。横須賀美術館 HP による作品展示風景公開は、美術館に中々足を運べない方々にも鑑賞していただく機会となった。これを機に美術館と更に連携し、是非継続していきたいと考える。



児童生徒造形作品展搬入風景

2. 研究内容・活動内容などの実践報告

4 月	教科総会 書面開催
5 月 8 日（水）	第4回県総会運営委員会 （不入斗中学校）
5 月 19 日（火）	令和2年度神奈川県公立中学校教育研究会 美術科部会総会 中止
6 月 7 日（金）	造形研究会中学部会 （不入斗中学校）…各校の年間計画他
6 月 25 日（火）	教育課程 中止
8 月 3 日（月）	中学校教育課程研究会第2日目 中止
8 月 7 日（金）	研究部研究会（中連文準備） 中止
8 月 26 日（水）	夏季研修会 中止
9 月 7 日（月）～	中連文巡回作品展 中止
1 月 22 日（金）	
10 月 23 日（水）	造形教育研究会中学部会 ※県展搬入作品 （不入斗中学校）

~~11月6日(金) 第47回研究大会川崎大会 中止~~
~~11月21日(土) 第64回三潮会展 (横須賀市教職員) 中止~~
~~11月24日(火)~~
~~11月21日(木)～24日(金) 第73回全国造形教育研究大会(千葉大会) 中止~~
 11月25日(水) 造形作品展担当者会 (不入斗中学校)
 12月16日(水)～21日(月) 第54回神奈川県中学校美術展 (県立青少年センター)
 1月9日(土)～11日(月) 第73回児童生徒造形作品展 (横須賀美術館)
 ～2月28日(日) 横須賀美術館HPにて期間限定作品公開



~~1月20日(水) 第73回造形教育研究会発表会 中止~~

1月26日(火) 造形作品展 搬出 (横須賀美術館)

※県作品展・中連文作品返却

3月6日(金) 美術科事務局会議 (不入斗中学校)

…中総体シンボルマーク審査・年間反省・組織検討

版画集『よこすか』No62 発行

3月 造形教育研究会役員事務局会 (馬堀小学校) …年間反省・研究計画

3. 今後の課題・まとめ

研究部会が中心となり継続的に研修会・研究会を開いていく方向となっている。また、今後の研究大会に向けても、4ブロック三浦・逗葉地区と合同の研究会を持ち、各地区ごとにA表現1ア・A表現2イ・B鑑賞の3グループにわかれて研究を進めている。

研究においても、各グループ研究の方向性を明確にし、更に次年度に



横須賀美術館屋上より

向けて更に深めていく必要がある。昨年度の夏季研修、東良雅人視学官から学んだ、生活や社会の中の形や色、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成について3つの柱について更に深めていきたい。やるべきこと・やれること・やりたいことの3つがバランスよく教育課程の中に組み込み、カリキュラムマネジメントにも配慮したものにしていかなければならない。

1月に行われている「児童生徒造形作品展」は、横須賀美術館開催が市民にも定着してきており、長期間の展示により観覧者も年々増えている。

学校を巡る状況としては、美術科がほぼ1校1名という状況で、近年臨任や新採用が増えている。教科としての情報交換や交流はますます必要と思われるが、校内事情や公務の多忙さ等で出張にも出にくい現状がある。オンラインでの会議を行うことで、グループや出張など有効に活用していきたい。

4 ブロック 横須賀地区 逗子・葉山

1、逗子・葉山地区報告

2、研究内容・活動内容などの実践報告

逗子・葉山地区では今年度感染症対策の為会議を開催することができず、連携事業を行うことができなかったため、逗子地区でのとりくみについて報告させていただきます。

逗子地区では小・中連携で夏期研修会、逗子地区小中学校の合同作品展を予定しておりましたが感染症予防の為すべて中止となりました。

逗子地区研究テーマは昨年度に引き続き「表現する喜びを大切にした学習指導のあり方」

(1) 夏期実技研修「版画の種類及び実践について」 中止

講師 逗子中学校 八重樫 祐未

今年度は感染症予防として外部講師を招聘するのではなく、部内の教員で研修を行う予定で計画しておりました。

研修内容は、小学校、中学校で多く実践される版画の種類と種類による表現の違いや、技法を知り、発達段階に合わせた題材選びとして適切な種類を選ぶことを目的にした研修を企画しました。残念ながら感染症流行の為今年度は中止となりました。

(2) 児童作品を持ち寄り各学校の活動報告

研修会と同時に開催をしていた活動報告も今年度は感染症流行により中止となりました。

。

(3) 第19回逗子市立小中学校図工・美術作品展について

①ねらい 市内の小中学校の作品を鑑賞し、楽しむ。

市内の小中学校の実践を参考に、より充実した図工・美術教育を目指す。

保護者や市民の方々にも作品を楽しんでもらい、図工・美術教育への理解を求める。

②期日 2021年2月3日(水)～2月5日(金) 9:00～17:00 (最終日は16時まで)

③場所 逗子文化プラザ 1F ギャラリー

④内容 授業で制作した平面作品(絵画・版画・デザイン等)、立体作品(粘土・工作等)の展示

今年度は展覧会の開催も中止となりました。

5ブロック 湘南地区

1「鎌倉市美術部生徒美術展について」

2「活動内容などの実践報告」

コロナ禍で、各校の授業実践を共有する鎌倉市生徒美術展が中止になったため、代わりに鎌倉駅地下道ギャラリーで美術部の活動による生徒作品展を企画し、地域の方々や生徒・保護者に作品をご覧になっていただいた。

今年度は縮小されたかたちでの展示となってしまい、各校の取り組みを十分に共有することができず残念だったが、次年度は新学習指導要領の内容を踏まえ、充実した研究会が行えるようにしていきたい。

日程	令和3年 1月11日（月）～11月18日（月）
展示内容	各学校が制作した美術部の作品。
展示方法	1校、1レーン（模造紙の横幅を1.8m以内に、縦の長さは1.5mに統一。）にまとめ、壁面と床面に設置をした。



5 ブロック 茅ヶ崎・寒川地区

1 研究テーマと設定の理由

(1) 「感性」の窓をひらく表現と鑑賞

(2) 設定の理由

表現及び鑑賞の活動を通して、生徒が自らの視点で感じたことを作品や言葉で表現していく力を育み、美しさや心情などを感じ取る豊かな感性の育成を目標に、研究テーマを設定した。

2

(1) 研究内容と実践報告

例年、美術部会では1学級全員の作品を持ち寄り、題材や授業のねらい、材料や技法、教材として扱う時期や時間数などについて、意見を出し合いながら、題材の研究を進めている。しかし今年度は、感染症対策のため地区美術部会が書面開催となり、部会で作品研究を行うことができず、地区美術展搬入日に行われた合評会が今年度唯一の作品研究となった。基本的に美術科教員が各校1名であることや、題材の選定を任されていることもあり、この作品研究は一人ひとりの授業観を鍛え、日々の授業を見つめ直し、互いを高め合う貴重な場となっている。

(2) 茅ヶ崎・寒川地区中学校美術作品展茅ヶ崎市美術館の全展示室に16校の生徒作品約2200点を展示し、地区中学校美術展を開催した。新型コロナウイルスの影響による来館者の減少を心配したが、3週間の開催期間に市内外から5088人が訪れ、昨年の来館者数を上回る結果となった。また、臨時休校により授業時間数が大幅に減ったことで、授業編成に臨機応変な対応が求められたが、展示を迎えてみると、各校の工夫がうかがえる様々な題材による作品が並び、例年と変わらず生徒たちの力作を来館者に鑑賞して頂くことができた。この美術展は、私たちの授業から生み出された生徒作品を一堂に公開できるため、外部に向けた発表の機会であると同時に、私たちの研究にとって重要な場であると考えている。搬入日に行う合評会は、各校の取り組みを全体で共有できる有意義な研修となっている。生徒たちにとっても、地区の中学生の作品にふれることができ、文化交流の良い機会でもある。例年、来館者に実施しているアンケートは感染症対策のため行われなかったものの、監視員に直接声をかけて下さる来館者が多く、中学生の美術表現のすばらしさを感嘆する声とともに美術の授業の大切さを支援してくださる内容のご意見を頂き、とても励まされた。

(3) 授業公開

中止（新型コロナウイルス感染症対策のため）

6 ブロック 伊勢原地区

1. 研究テーマ

「感じる心を育てるための表現・鑑賞方法の模索」

「指導と評価の一体化」

- ①基本的な造形能力を育て、一人ひとりの特性に応じた造形活動および鑑賞ができるようにする。
- ②指導と評価が一体となったカリキュラムづくりを行う。

2. 活動実践

(1) 新型コロナウイルス感染防止対策の検討、臨時休校における美術科の課題検討

(2) 市内中学校教育研究美術科部会・授業研究

10月7日(水) 中沢中学校 美術室「3学年 鑑賞・風景を描く」

- 目標
- ・自分の風景画の作品について思いを述べることができる
 - ・学級の友人の作品についての思いを理解することができる

協議

- ・コロナ禍における、生徒同士の心の触れ合いや互いを認め合う活動を大切にした授業づくりについて

(3) 教員実技研修

12月23日(水) 山王中学校 落合陵子先生による実技講習「七宝焼き」

- ・七宝焼きの基礎技能を学び、七宝焼きによるレリーフを制作



(4) 伊勢原市中学校生徒美術展

- ・1月の実施に向け準備をしていたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により中止
- ・次年度の開催へ向け、改めて検討・準備をしていきたい

6 ブロック 平塚地区

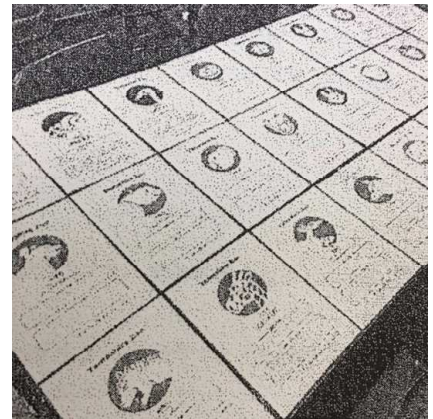
1. 研究テーマ 「新学習指導要領に向けた指導と評価について」

2. 活動内容

(1) 中地区中学校教育課程研究会・提案

- ・実施日 令和2年8月5日(水)＊書面開催
- ・提案者 平塚市立山城中学校 石井 有彦 教諭
- ・内 容 「見たいが見つかるピクトグラム」
～ヤマシロ zoo map を作ろう～

伝達のためのデザインである「ピクトグラム」の制作を通じて、学校生活や地域社会などで美術が果たす役割や意義について深く感じ取らせる授業実践の報告がなされた。



(2) 実技講習会

- ・実施日 令和2年8月18日(火)
- ・会 場 平塚市美術館 アトリエ
- ・講 師 三ツ木 紀英 氏
- ・内 容 「対話型鑑賞の講義と実演」
平塚市美術館の所蔵作品数点を題材に対話形式で鑑賞し、作品の見方・考え方を深める手立てについて具体的に学ぶことができた。

(3) その他

年度当初計画されていた「計画訪問」「授業づくり推進員による公開授業」「平塚・大磯・二宮地区中学校美術展」等が開催中止となった。

3. まとめと今後の課題

今年度は、コロナ禍での教育活動を模索した1年であったと思う。感染防止対策を施した授業運営や平塚・大磯・二宮地区中学校美術展が開催中止になるなど、各校とも初めての事態に戸惑いつつ、手探りで課題を克服してきた。研究テーマであった「新学習指導要領に向けた指導と評価について」も市内で連携した研究が難しかったため、来年度も引き続き取り組んでいけたらと考えている。

6 ブロック 中地区(秦野)

1, 研究テーマ

「3年間を見通した教材選び～指導と評価のあり方～」

秦野市中学校美術科部会では、昨年に引き続き「3年間を見通した教材選び～指導と評価のあり方～」についての実践を進めてきた。特に指導と評価のあり方について焦点を当て、各校の取り組みをもとに研究を進めることができた。新学習指導要領では評価が4観点から3観点へ変更されることもあり、市内でも教育講演会等で研修を重ねながら「指導と評価のあり方について」の研究を進めた。新指導要領をもとに授業を見直し、他校での授業実践に関心を持ち、情報交換をすることで、授業改善をするよいきっかけとなった。一方課題として、新しい時代を見据えた力を身に付けるために、その授業で「身に付けさせたい力」は何か明確にする必要があることが出てきた。また、全校生徒を指導・評価するために必要な時間、特に学期末に集中してしまう成績を出すためにかかる時間をどう改善していくかも課題としてあげられた。

本年度は来年度からの新学習指導要領の施行に向けてより具体的に授業づくりや評価資料を検討し、生徒の継続した学びにつながるよう研究を進めていくことにした。

2, 研究内容

(1) 新学習指導要領施行に向けて～市内研修会より～

①授業づくりワークショップを通して

初めに当日はコロナ感染予防としてZOOMで参加された横浜市立東山田中学校の荻島千佳教諭にご自身の授業実践を紹介していただいた。次に、市内の参加者が持ち寄った授業作品についてご指導いただきながら「美術科として何ができるのだろう」「生徒の実態について」「いまを生きる中学生」「新しい社会を生き抜く力」などのキーワードに結び付けながら具体的にお話をしていただいた。その後、グループに分かれ、割り当てられた生徒の実態・題材・学校の環境を踏まえて指導事項や題材について話し合った。身に付けたい力を明確にすることで、評価の観点や指導事項なども具体的に決めやすく感じた。例年同じ教材で授業を行うのではなく、自校の生徒の実態や環境、授業を通して成長した姿、どのような力を身に付けたいのかを考え、カリキュラムを組み立て見直すという、授業づくりの根本に立ち返る体験が出来た。

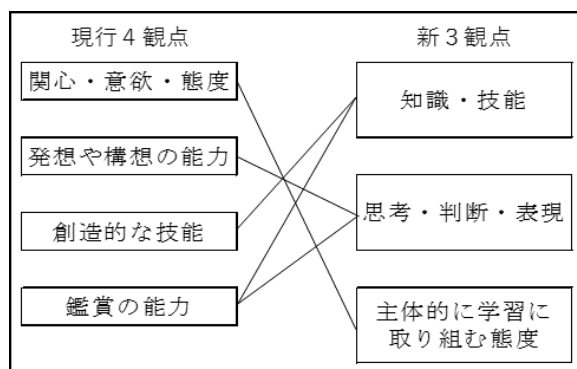
②授業評価のあり方について

県教育の竹下指導主事からは、新指導要領の改訂のポイントの確認として「三つの柱」「教科の目標の柱書」「造形的な見方・考え方」などをもとに具体的な指導事項の内容として「A表現」「B鑑賞」との関連や共通事項の扱い方、学習評価についての説明があっ

た。学習評価については生徒の具体的な学習改善につながる事が大切で、事後の評価に終始しない事が大切であることを強調されていた。また、ICTの効果的な活用を進め、効率的な授業を進められるように教師同士の連携が今まで以上に大切になると説明されていた。

(2) 観点ごとの評価について

ア 4 観点→3 観点の変更について



新学習指導要領での4 観点から3 観点へ

の変更を受けて、今年度実施した各校の題材で評価の置き換えを行なった。一つの題材の中でどの観点がどう対応するかを表で示したところ、観点別に資料を振り分けることはできるが、資料数に偏りが出たり、得点化した時に一つの観点到得点が集まったりということが見られた。授業計画を立てる時点で、観点ごとの資料の配分や配点を考えて計画する必要がある。

イ 定期テストの扱いについて

市内の全ての学校で定期テストが他の教科同様に行なわれている。以前より美術科に求められる学びとテストの内容との妥当性は意見が交わされてきた。新学習指導要領への移行により、求められる学力と、一問一答式テストで見とれる学力の違いがますますはっきりした。テストの実施の有無、または内容の改革を考えなくては、新学習指導要領の目指す生徒の姿から離れた教育実践をすることになるのではないだろうか。テストの取り扱いについて十分に検討し、各校が足並みをそろえて取り組んでいきたい。

3. 成果と課題

今年度の成果として、新学習指導要領での観点別の評価資料の当て方が具体的になったことがあげられる。各校1名の勤務がほとんどであるため、各々がどう授業内の評価を割り振っているかが見えてきたのは次年度につながる点でもよかったと考える。また、「身に付けさせたい力は何か」という授業づくりの根本に返っての研修を、市内全中学校の美術科教員で受けることができたことは、大きな収穫となった。

課題としては、学期末や学年末などに完成作品や回収したプリントを評価する、いわゆる事後での評価に終始してしまうことが多いということがあげられた。事後評価だけでは評

価の結果が生徒の具体的な学習改善につながらない。完成作品のみではなく、制作過程も含めた複数の資料で評価を進めていかなくてはならない。そのためにも教師が授業評価の見通しを持ち、評価を生徒にフィードバックするための工夫を行うことで、「指導と評価の一体化」を目指すことが必要である。また、市内の美術科のテストの在り方について評価との関わりが深い点でも、新学習指導要領に即した方法をさらに検討したいところである。

7ブロック 県西地区(足柄上)

1 本年度の研究主題

「美術を学ぶ意義を意識しながら、主体的に学ぶ生徒の育成」
～人間性を高め、資質・能力を身につけるための授業改善をととして～

2 年間事業計画

- (1) 5月 年間事業計画
- (2) 11月 授業研究会

3 研究日程と活動

11月12日(木) 研究授業「ときめきのスプーン ～心を動かす形とは?～」

松田中学校 稲川 卓志 総括教諭

スプーンを使う場面や使う者の気持ち、木材の持つ美しさなどを考え、使用者の心を動かす独創的な表現、制作を題材とした授業が行われた。この題材のねらいは、使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ちを考えるとともに、材料から主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ることを目標としていた。形状を検討するためのツールとして粘土を併用し、平面のスケッチだけではなく立体で直接形を考えるようにする工夫がされていた。さらに C-Learning による生徒間での共有や評価などを取り入れるなど、ICT を効果的に活用した授業展開がなされていた。授業のなかで、マインドマップという思考表現方法を取り入れることによって生徒たちの発想を引き出していた。しかし、マインドマップや平面のスケッチではうまく形状を検討できない場合もあるため、そこは粘土を用いて立体で直接的に形状を検討するなどの手立てが見られた。

4 足柄上郡・南足柄市文化活動発表会

新型コロナウイルスの影響により規模を縮小してではあったが、今年度も南足柄市と合同で美術展を開催することができた。授業数(作品制作時間)確保の難しさから、

作品やパネルの数は各校半数程に縮小した。また、会場受付に消毒液の設置や連絡先の記入要請、入場口と退場口を分け、来場者の移動経路を一方通行にし、換気を徹底した会場配置にするなど、感染対策を講じて実施した。昨年度に比べ、作品数や入場者数は大幅に制限されていたものの、生徒たちの学習成果の発表と美術科部会の授業研究としての貴重な機会となった。特に、各校からのポスター原画作品の公募と展示や、作者の言葉や題材学習のねらいなどを作品と併置させた展示は、今後も継続していきたい。

5 今後の課題（まとめ）

美術科教科部会では、研究テーマをもとに生徒の深い学びについて考え、各校で授業改善に取り組んできた。引き続き各校との連携を図り、情報交換を重ねながらよりよい指導の工夫をし、美術が社会で生かされているということを生徒が実感できる授業づくりを意識した授業改善を続けながら、主体的に学ぼうとする生徒の育成を図りたい。

7ブロック（小田原・足柄下地区）

1. 研究テーマ 「主体的に学ぶ生徒を育てるための授業づくり」
～うけつぐ つなぐ ひろげる学びを通して～

2. 研究内容・活動内容

（1）研究日程

日時	内容
4月10日(金)	第1回美術科部会 年間計画と役割分担の確認
6月の部会、8月の夏季研修は新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、中止	
9月9日(水)	第2回美術科部会 中学校生徒美術展準備会
10月27日(火) ～31日(土)	小田原・足柄下地区中学校美術展
11月6日(金)	第3回美術科部会 研修会:指導と評価の一体化についての実践紹介
1月の部会は新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、中止	

（2）研究内容のまとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、部会や打ち合わせが限られた期間しか行うことができなかった。そのため、11月に研修会を行い、各々の学校でこれまで行ってきた「指導と評価の一体化について」の実践を紹介しながら、各学校で取り入れられる内容を全体でまとめることとした。

実践については、題材を1つ例にあげて、どの評価の観点を中心に見ていくかを考えたうえで、生徒への働きかけの方法や、それによる変容について情報交換した。また、授業内で全ての生徒に対して評価を確実に行うことが難しい中で、「授業カード」や「作品用紙」を活用しながら、授業内や作品だけでは見取ることができなかった生徒の思いや考えを、授業者は理解することができることも話題となった。

また、評価を生徒にわかりやすく明示することも必要であることが話にあがった。生徒のこれらの制作活動や意欲の向上につながるように、作品や授業カードに指導者からのコメントを入れるなど、学校の規模や仕事量を考えて無理のない範囲で取り組んでいきたい。

今年度は集まれる時間が短いながらも、各校の先生が実践から感じた「見方・考え方」を伝え合いながら、教師自身の学びを深めていくことができた。

（3）小田原・足柄下地区中学校美術展

来場者や会場ボランティアのアルコール消毒や学校ごとに来場日を設定するなど、感染症対策を考えながら、10月27日（火）から31日（土）の期間で開催することができた。展覧会場内では、研究テーマと内容を掲示するとともに、関連する題材や作品にマークをつけて、見学者にもわかるように明示した。新型コロナウイルス感染症で、いろいろな学校行事が中止になっている中での開催であったが、生徒や保護者にとっては、選ばれた作品が展覧会場に展示されることは喜ばしいことであり、来場する方も多かった。



7ブロック 県西 南足柄地区

1 本年度の研究主題

「豊かな創造を引き出し、作り出す喜びを高める授業力、指導力の向上」

2 年間事業計画

新型コロナウイルス感染症対策の関係で、当初の予定通りの日程は行うことができず、各学校での研究や、郡市文化活動発表会での展示が主な活動となった。

3 研究日程と活動

(1) 10月17日(土) 足柄上郡・南足柄市中学校文化活動発表会

「各校の文化活動の成果を発表、鑑賞することにより、文化活動に対する意欲及び技能の向上を図るとともに豊かな心の育成を目指す」という目標をたて、「発表や鑑賞を通して豊かな情操を養おう」というテーマをもとに、音楽科と共に舞台発表や展示発表を行った。各校で制作した作品を持ち寄り、授業風景や研究成果の発表を行い、互いに研究を深め合うことができた。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、例年より展示作品数を減らし、作品と作品の空間を広げることでソーシャルディスタンスを意識した展示となった。

(2) その他の活動

休校期間中の各学校の取組や、休校によって減少した授業日数のなかでできることを共有し合い、互いの研究を深め合うことができた。また、各時間の消毒や、密を避けるための時間差をつけての絵の具の片付けなど、各学校で感染症対策に努めた。

また、地域の風景画コンクールなど、各種コンクールへ応募を募り、コロナ禍においてもできる限り地域との連携や発表の場を設けた。

4 今後の課題(まとめ)

新型コロナウイルス感染症への対応が今後も続くと思われるため、感染症対策を行ったうえでの教科研究をしていく必要がある。鑑賞におけるグループでの話し合い活動や、作品制作時のソーシャルディスタンス、時間差をつけた水道での後片付けなど、さらなる工夫が必要である。

また、今年度の各個人や学校における研究成果を生かし、来年度以降の感染症対策や研究をさらに深めることができるように努めていきたい。そして、研究部の運営や研究授業の在り方を今一度見直し、コロナ禍の中での学習の深まりを追求していきたい。

8 ブロック 座間地区

- 研究テーマ

「対話を通じた豊かな表現と鑑賞を目指す」

研究内容・活動内容などの実践報告

- 授業研究

- 西中学校 大磯 裕志 教諭 2020年9月29日 5校時

1年2組 木彫レリーフ「ネームプレート」

「レタリングの学習で練習した文字のデザインをもとにして、生活で使う作品の制作を通し、ものづくりの喜びと楽しさを味わう」というねらいで、この時間は半立体表現について学習し、彫刻刀で掘り進めていた。見通しをもって、落ち着いて取り組めていて、そうじ後片付けも自主的にしっかり行えており、振り返りもよく記入できていた。

- 座間中学校 吉田 理紗 教諭 2021年1月15日 5校時

1年3組 開いてびっくり！気持ちを伝えるポップアップカード

「ポップアップカードの制作に関心を持ち、用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから表現の構想を練り、材料や用具の特性などから制作の順序を考えながら、見通しをもって計画的に表現する」という目標で、この時間は構想を練っていた。しばらく教室での作業だったとのことで、美術室での作業がうれしそうだった。切り替えが早く、作業をしていてもすぐに話を聞く体制ができていた。

座間市中学校総合文化祭展示部門への参加

会期 2020年10月30日（金）～10月31日（土）



- まとめと今後の課題

今年度は、コロナ禍での活動となり、県主催の研修や研究大会が中止もしくは紙面開催になる中で、県美展や市総合文化祭の展示に参加することができ、また2回の研究授業・部会をもつことができるなど、例年並みに近い活動を行えた。青少年美術展も作品内容や出品数をしぼり、また開催時期を遅らせて開催する予定となっている。次年度、市総合文化祭の開催時期が初めて一カ月早まることになり、作品制作が間に合わないことも予想されるので、各校一層連携をとり、さらに他教科や部活動等へも協力を求めて取り組んでいきたい。

8 ブロック 綾瀬地区

1. 綾瀬市の研究テーマ「生徒自ら、主体的に発想・構想を広げる授業づくり」

2. 活動内容・巡回展の実施

(1) 2020年の活動報告

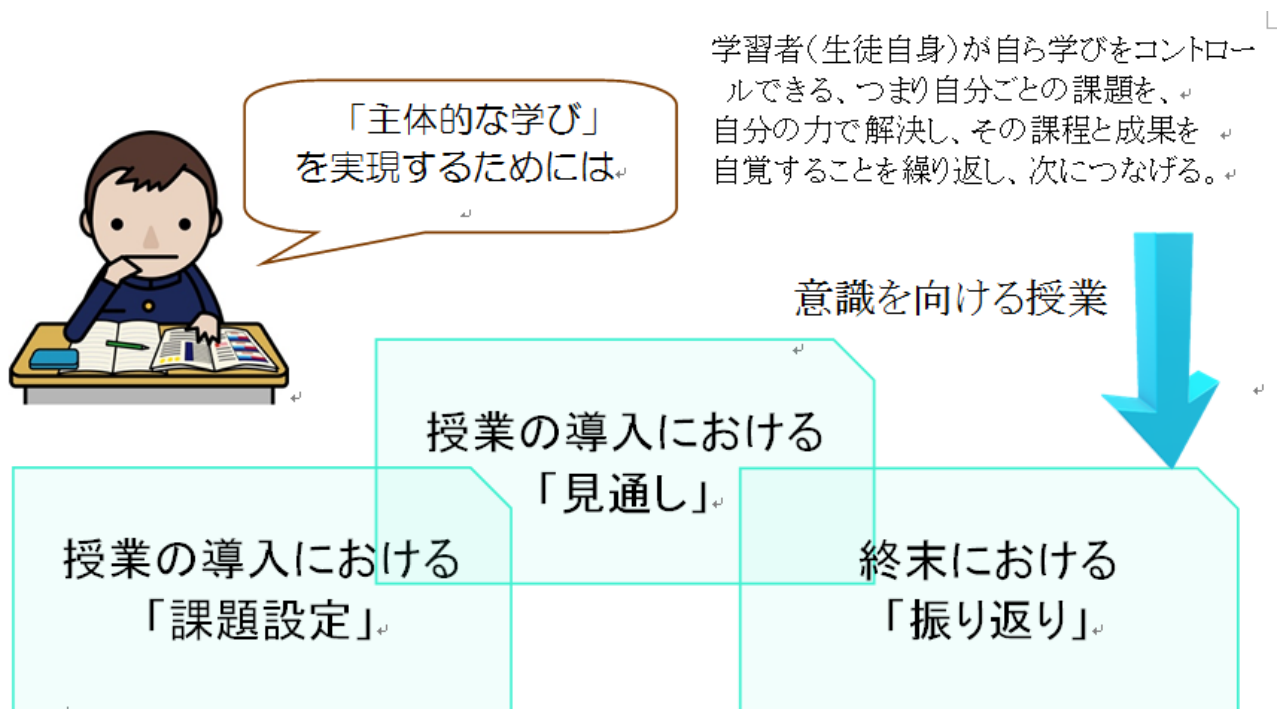
- 4月 綾瀬市美術部会 研究テーマ決定、休校期間中の課題について
- 10月 綾瀬市美術部会 参加
- 11月 綾瀬市美術部会・綾瀬市巡回展 参加
- 12月 神奈川県中学校美術展 参加
- 2月 綾瀬市美術部会 参加

(2) 2020年11月24日(火)～2021年2月15日(月) 綾瀬市巡回展

市内で研究テーマに沿った作品を作り、5つある中学校で巡回展を行った。本年度の研究テーマである「生徒自ら、主体的に発想・構想を広げる授業づくり」をもとに、それぞれの教諭が実践を行った。

3. 実践報告

北の台中学校では、以下のような取り組みをした。



8 ブロック 厚木・愛甲地区

1 第8ブロックの取組について

8ブロックは、厚木愛甲地区と座間・海老名地区、それに大和・綾瀬地区を合わせた、三つのグループで構成している。今年度の8ブロック代表は、輪番で厚愛地区代表が担当、県美展の会場受付も担当した。ブロック代表の活動は、感染予防対策で地区代表会議が中止になる中、電子メールによる問い合わせや、資料送付や提出が中心になった。神中美会員名簿の情報は、電話・F a x の記載に加えて、学校アカウント一覧の掲載を希望する。また、事務局の提出関係のアカウントに、プライベートアカウントの利用は避けたい。特に名簿の添付など、公務としてのセキュリティを保つ必要があるだろう。

2 厚木・愛甲地区の取組

(1) 研究テーマについて

厚愛地区では、新学習指導要領完全実施をにらみ、令和元年度から「美術がつなぐ豊かな学び」を研究主題として、授業研究に取り組んでいる。令和元年度には、地区独自の授業実践記録集を編集し、これをテキストに、地区教育研究会主催の教科一斉研究会で、口頭発表と協議を行った。

令和2年度は、10月の美術部会で4人の教員が授業実践を報告した。意見交換のあと、講師を招いて新学習指導要領の評価基準などについて研修会を行った。なお、次年度には授業実践記録集を編纂する予定。

(2) 活動内容

3月2日からの一斉休校時には、すでに継続研究が決定していたので、「美術がつなぐ豊かな学び」を主題にして、各学校ではそれぞれに、教材研究に取り組んだ。感染予防対策を行い、開催された最初の部会では、議案協議の後に、休業中の生徒課題などを持ち寄り、相互の教材研究を深めた。また、リモート会議の実験が提案され、有志で実際に取り組んだ。利用機材や Wifi 環境など、運用してみると、さまざまな課題が浮かび上がった。

・年間活動の概要

第1回	4月23日(木)	第1回美術科部会、組織役割分担の決定	(荻野中学校)
第2回	8月24日(月)	学習発表会要項の検討、予算案の検討	(荻野中学校)
題3回	10月27日(火)	4人の提案と講演会で新しい評価指標を研修	(荻野中学校)
	1月16日(土) ～19日(火)	厚愛地区美術科学習発表会→再度の緊急事態宣言で中止 (アミューあつぎアートギャラリーが閉館のため)	
第4回	2月26日(火)	年間反省、来年度に向けて	(荻野中学校)

・ **評価規準の共有について**

美術教師に占める本務者の減少は、本地区にとどまらない傾向だろう。本地区美術科部会では、従来の４観点と、新３観点との整合性について研修会をおこない課題意識を共有してきた。しかし部会に参加できない非常勤や臨時職員が新年度からの授業題材を構想する際の、指導と評価の一体化をどのように担保するかは、今後の地区教育研究会美術科部会の重要な課題である。

③美術科学習発表会について

１月１６日（金）～１９日（火）にアミューあつぎアートギャラリーで開催される、中文連主催の芸術祭展示部門で、本地区１８校は、美術科学習発表会を予定していた。しかし、１月の再度の緊急事態宣言にともない、会場が利用できなくなり、中止になった。各校では準備していた作品をもとに校内展示をしたり、ホームページで公開したりして、芸術祭展示部門の、代替の発表に取り組んだ。

8 ブロック 大和地区

「新しい生活様式での美術の在り方」

大和市美術科研究部

1. 研究テーマについて

今年度は、新型コロナウイルス感染症が世界に蔓延し、「新しい生活様式」として生活の変容が求められていた。学校生活でも三密を避けての活動や、活動そのものを見直すことが求められた。その中で、美術教育の在り方はどうあるべきか、をテーマとした。各校では、新しい生活様式に合わせ、造形活動や鑑賞活動を実践した。その情報共有をしながら、より良い活動方法を模索した。

2. 研究課程

第1回 6月26日（金）

- ・テーマの検討
- ・今年度、大和市総合文化祭 美術展の開催方法について

第2回 11月5日（木）

- ・大和市総合文化祭 美術展 フォトムービーの確認
- ・大和市総合文化祭 美術展 の開催方法細案の検討

第3回 1月15日（金）「書面開催」

- ・市教研部会年間反省（美術展反省、研究反省等）
- ・来年度の予定（部長校等の確認）

3. まとめと反省

今年度は、新しい生活様式への変容が求められる中、各校、様々な工夫を行い美術科の活動を行ってきた。その情報共有を行い、様々な制限がある中で、活動方法を模索した。混乱のある中でも、美術科教育の価値を再確認し、研究を行うことができた。造形活動では、道具の共有について問題になることもあったが、消毒方法を協議し、共有することができた。

大和市総合文化祭美術展の開催に関しては、感染防止の観点から中止をすることも検討したが、美術の表現と鑑賞による文化交流の重要性から、生徒作品の画像を集約し、フォトムービーでの開催を計画した。例年とは違う開催で、実物の作品を見る感動には至らないものの、美術作品の鑑賞を通して、それぞれの表現の良さを感じられる活動となった。また、例年では、文化創造拠点シリウスでの開催であったため、見学者も限られてしまっていたが、校内の開催によって見学する人も増えたことは大きな収穫であった。今後も、美術科の活動方法を研究していきたい。

会報作成の目的は、各地区で「取り組んでいること」や「活躍している美術教師のグループ・個人」の情報を全県下に広く紹介することです。

会報によって各地区の取り組みを知り、参考にさせていただくとともに、神奈川県的美術科教師の相互理解を深めることができると考えておりますので、積極的な協力をお願いいたします。

なお、今後も会報の充実を図る意味からも、今年度ぜひ全地区からの情報が掲載できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

(1) 主な内容

- この一年間で各地区で実践・研究したこと
- 各地区で活躍した美術教師（グループ）及び内容
- 美術展・研究会等の内容報告 など

あまり形にこだわらずお書きください。

(2) 記載事項・記載方法（次ページ参照）

- ・原則としてこのように考えますが、報告する内容によって各地区で工夫していただいてよいかと考えます。
- ・記録等で写真がございましたらレイアウトして載せていただけると、よりわかりやすい報告となります。

原稿サイズ	A4縦(横書き)
文字数	4 4 文字
行 数	5 0 行程度
枚 数	1 ～ 2 ページ

ここの部分が、なかなかうまくいきません。周りの余白を空けることを、お守りください。

その他のデーター

一太郎あるいはワード	1 0 . 5 ポイント			
ヘッダ 2 1	フッタ 2 0	左 2 0	右 2 0	ページは入れないでください

※できましたら、上記の環境での原稿を広報部にご提出していただけると幸いです。
※全体を統一させたいので、手書きはご遠慮ください。

(3) 提出時期・方法

提出時期 2月末まで（期日の厳守をお願い致します。）
提出方法 各地区代表が作成し、広報部 上田までEメール添付にて提出します。
（そのまま印刷しますので、FAXはご遠慮ください。）
提 出 先 〒238-0111神奈川県三浦市初声町下宮田3622 上田博幸
E-mail: j-hassey.ydt85@miura-ed.net
※届いたメールには、届いたことの確認の返信をします。

(4) 発行予定 令和4年度 神中美総会後

4 ブロック 横須賀地区

1、研究テーマ「〇〇〇〇」やタイトル（全てゴシック体）

(1) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (以下 明朝体)

(2) ○○○○○○○○○○○○○○○○○

[illegible]

① ○○○○○○○○○○○○○○○○○

②

※ここにあげた記入例は、あくまでも例ですので形にこだわらずまとめてください。

◎ 1、2、3 の項目の間は 1 行空けてください。

※各地区での取り組みの紹介を基本的に考えていますので、各項目については各地区の実情や紹介内容によって工夫して下さい。

J B 通信は、広報部で作成するので原稿の書式は自由になります。

※ＪＢ通信は、年３回発刊している。広報部が作成する通信紙です。会報は、年度末（２月末）に各地区代表が広報部に提出するものです。

広報部編集後記

この会報は、神奈川県全ての地区の1年間を振り返りまとめた冊子です。会報を見ることで、一人ひとりの美術科の先生方に、神中美の活動を知っていただけるようにと思い、年1回発刊しています。会報の制作にあたり、各地区代表の先生方、お忙しい時間を割いて会報への報告を誠にありがとうございました。

今年度の総会も、新型コロナウイルス拡大防止の対策を受けて中止となりました。会報については、今後は電子版会報として冊子としては配布いたしません。ご理解を宜しくお願い致します。

尚、広報部では、JB-net (jb-net.biz) というウェブページを開設しています。年間3回のJB通信とともに神中美の年間活動や広報活動をおこなっています。不定期で更新しております。

タイムリーに情報の伝達出来る手段となるので、何か連絡したいことがあれば広報部まで連絡をお願いします。

神中美広報部部長 古谷 尚（横須賀市立田浦中学校）

令和2年度

神奈川県公立学校教育研究会 美術科部会会報

発行日 令和3年（2021年）5月26日

発行者 神奈川県立公立中学校教育研究会
美術科部会

代表者 神奈川県立公立中学校教育研究会
美術科部会会長

川崎市立住吉中学校

校 長 縄田 芳信